

# 第4学年の実践

## 1 本時の実践（6／11）

1組 八木橋 傑


### （1）本時の観点別目標

- ・いたずらで、兵十のうなぎを取り、償いをしているごんの気持ちを考え、ごんが「こいつはつまらないな。」と思う理由から、兵十に気づいて欲しいと想うごんの気持ちと直接誤解を晴らすことができないごんの心の葛藤を情景描写や叙述をもとに想像して読むことができる。【読むこと】

### （2）仮説に迫るための具体的手だて

- ・「こいつはつまらないな。」と考える根拠となる叙述に線を引かせ、それをもとに、自分の考えをノートに書きこむようにする。〈仮説1〉
- ・交流では、自分と友達の意見を比べ、ノートに似ている点や異なる点を書き込んだり、友達の意見でよいと思ったことを単語など短い言葉で書き込んだりする。〈仮説2〉
- ・学習用の個人タブレットを使用し、ごんの気持ちをペイントを使って色で表現することで、色鉛筆で表せない、色合いを表現させることができ、児童一人一人が考えたごんの気持ちに迫るようにする。〈仮説2〉

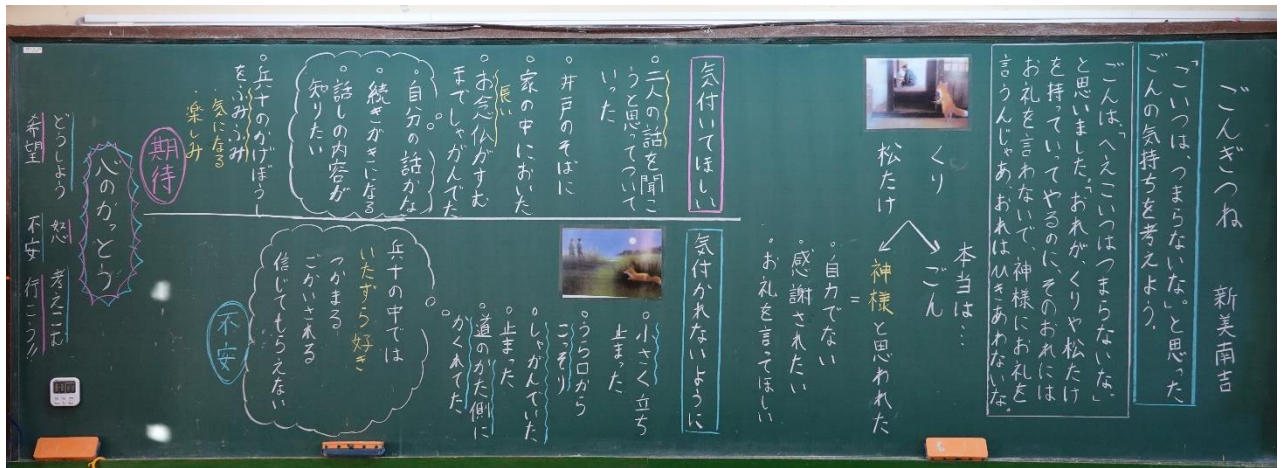
### （3）展開

過程	時配	学 習 活 動 と 内 容	◇考察
導入	2	<b>1 本時のめあてをつかむ。</b> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">                     「こいつは、つまらないな。」と思ったごんの気持ちを考えよう。                 </div>	
展開	30	<b>2 自分の考えを明らかにし、ペアで交流し、その後クラス全体で交流する。</b> ○ノートに書いた考えを、友達と伝え合ひましょう。友達の意見は、ノートにメモをしましょう。  ○ごんは、どうして「こいつは、つまらないな。」と思ったのでしょうか。 ・お礼を言ってもらえなかったから。 ・こんなに努力したのに、気づかれないから。 ・想いが伝わらなかったから。 ・神様のしわざと兵十に思われたから。 ・自分は何もやっていないことになったから。 ○ごんは、どうしてほしかったのでしょうか。 ・気づいてほしかった。 ・仲良くしたかった。 ○本文を読み返して、ごんのどの行動に気づいてほしい気持ちが表れているか探してみましよう。	◇ペア学習にすることで、話しやすい空気となり、友達に自分の意見を認めてもらうことで、全体交流につなげることができた。 ◇交流の形態をペアにすると、友達の意見を聞く機会が減ってしまい、読みの深まりにつながりにくいことが分かった。 ◇全体交流として発表する時間、友達の意見を書く時間をかけたほうが、すべての児童がノートに意見を書くことができるかもしれない。 ◇模造紙等で物語を振り返ることで、前時までの学習とつなげることができた。 ◇教科書叙述を振り返ることで、根拠をもとに、ごんの気持ちを考えることができた。

<p>まとめ</p>	<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二人のあとをついていきました。</li> <li>・お念仏がすむまで、井戸のそばにしゃがんでいました。</li> <li>・兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。</li> <li>・兵十と加助の話聞いていました。</li> </ul> <p>○近くできいているのだから、直接兵十に話しをして、誤解を解けばよいのにしなかったのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで、いたずらばかりしていたから、つかまると思った。</li> <li>・撃ち殺されると思った。</li> </ul> <p><b>3 話し合いの結果を踏まえて、もう一度自分なりの考えをまとめる。</b> (タブレットのペイント機能を活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんは償いのために行っていたので、兵十にお礼を言われなくてもいいと思うけど、神様がやっていると思わないで、もしかしたらごんがやっている気づいてほしい。</li> <li>・神様がやったことと思われたのは、偉大なことなので正直うれしいけど、ごんがやったと気づいてくれなくて悲しい気持ち。</li> </ul> <p>5</p> <p><b>4 本時のごん日記を書く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵十の話聞いていたら、ぼくの償いが神様の仕業にされてしまった。悪いのはぼくだから仕方ないけど、気づいてほしいな。でも、直接行ったら、きっと今までいたずらばかりしていたから、つかまっちゃうよな・・・。</li> </ul> <p>1</p> <p><b>5 次回の学習課題「ひき合わないなと思いがながらも、兵十の家に行ったごんの気持ちを考えよう。」につなげる。</b></p>	<p>◇板書をごんの「気づいてほしい気持ち」と「気付かれないようにする気持ち」にわけることで、兵十に対するごんの心の葛藤を児童が感じることができた。</p> <p>◇板書を上下段にわけたことで、どちらにも当てはまらない微妙な気持ちを感じることができなかつた。</p> <p>◇タブレット端末のペイント機能を使うことで、言葉で表すことが難しい、ごんの気持ちを児童自身の考えで表すことができた。また、その色やレイアウトをした理由を聞くことで、読みの深まりにもつなげることができた。</p> <p>◇大型テレビにワイビアを使い転送し、発表させたが、全員の気持ちを見ることができなかった。</p> <p>◇ごんになりきって書くことで、ごんの気持ちの変容を捉えることにつながった。</p>
------------	---	---



【授業当日の板書】



## 2 授業後反省

- ・本時は、兵十のうなぎを取り、償いをしているごんの気持ちを考え、ごんが「こいつはつまらないな」と思う理由から、兵十に気づいて欲しいと想うごんの気持ちと直接誤解を晴らすことができないごんの心の葛藤を情景描写や叙述をもとに想像して読むことができた。
- ・多様な心情の変化を表す手立てとして、タブレット端末（ペイント）を活用した。大型テレビにワイピアを使って児童の画面を転送することで、児童それぞれが考えたごんの気持ちとその根拠を全員で考えることができ、学習の深まりにつながった。
- ・授業後の児童の「ごんぎつね日記」を読むと、最初に書いたごんの気持ちだけでなく、友達のことを取り入れた気持ちの葛藤が表れていた。友達の意見が自分の考えに影響を与えている証拠であり、授業における読みの深まりを感じることができた。

## 3 講師・参観者等の指導及び助言

- ・学習課題を児童とともに作り上げたので、学習意欲の高まりや読みの深まりを感じられてよかった。
- ・ペイント機能を活用した物語文の読み取りを初めて見ることでよかった。
- ・教員主体で引き出すのではなく、児童から引き出すような声かけを行うことができるとよい。
- ・板書が工夫されていて分かりやすかったが、児童の意見を分類分けし、あらかじめ上下段に分けていくのではなく、構造的にまとめるところがあるとさらによい。
- ・はじめにごんが「つまらないな。」と感じた気持ちをペイントで表現し、グループで発表する。その後、根拠を明確にするために、教科書の叙述に戻ることで、気づいてほしいごんの気持ちと気づかれないようにするごんの気持ちを探す自然な流れを作ることができる。

## 4 成果と課題

- ・担任が教材研究し、どのように教材を読ませていきたいかを指導案にしっかり明記し、読みが深まるような授業展開を考えられてよかった。
- ・物語文の読解で、タブレット端末や大型テレビ、ワイピアなどの情報機器を使用した授業を提案することができてよかった。特にペイント機能は、言語化することが難しい児童や複雑な気持ちを表現するのに効果的なことがわかった。
- ・児童から意見を引き出すような発問や、考えても意見をもつことが難しい児童に対してどのような手立てをとると効果的か、今後も研鑽を積んでいく必要がある。

## 5 児童の変容

### (1) 児童のノートより

#### ①本時の変容 児童のノートより

授業のはじめの考え	授業の最後の考え（ごんぎつね日記より）
<p>たのまないな。」とごんは言ったのだと思う。</p> <p>る。だから、「こいつは、つ</p> <p>のに、くやしい気持ちがある</p> <p>たら、頑張ってるやっ</p> <p>様にお礼を言われてしまっ</p> <p>行っってやってやるのに、神</p> <p>自分が栗や松茸を持って</p>	<p>ぼくは、ごん。あ、兵十と</p> <p>加助が歩いてくるぞ。何を</p> <p>話しているのかな。ついて</p> <p>行ってみよう。あ、兵十が償</p> <p>いの話をしてる。さては、</p> <p>ぼくの話かな？二人ともど</p> <p>こに行くのだろう。あ、お念</p> <p>仏をしにいこう。あ、お念</p> <p>仏をしにいこう。あ、お念</p> <p>あつ、ちようどいい井戸が</p> <p>ある。お念仏がすむまで待</p> <p>ってよう。まだかなー、お</p> <p>そいなー。兵十が帰ってきた</p> <p>た。お念仏が終わったのだ</p> <p>ろう。そつとついて行こう。</p> <p>加助が「神様の仕業だぞ。」</p> <p>ぼくはその言葉を聞いてび</p> <p>つくつとなつた。本当はぼ</p> <p>くなのに……。ぼくは兵十の</p> <p>前に出て言うか迷った。で</p> <p>も、いたずらばかりしてき</p> <p>たから、誤解されて捕まる</p> <p>かもしれない。しばらく二</p> <p>人の後をついて行った。</p>

#### 【考察】

ごんが「こいつはつまらないな。」と言った理由は、自分（ごん）がやっていたのに神様の仕業になってしまったと初めから理解する児童は多かった。授業を通して、自分が償いを頑張っていたことを気づいてほしい気持ちと、いたずらばかりしていたから気づかれないようにする気持ちを、物語全体を振り返り、根拠となる叙述を探し読みを深めることができた。本時の学習課題を考えさせることで、真に考えたいごんの心の葛藤に気づくことができた。

【ペイントでごんの気持ちを表現する】

「こいつは、つまらないな。」と思ったごんの気持ち 明るく日もくりを兵十に持って行ったごんの気持ち



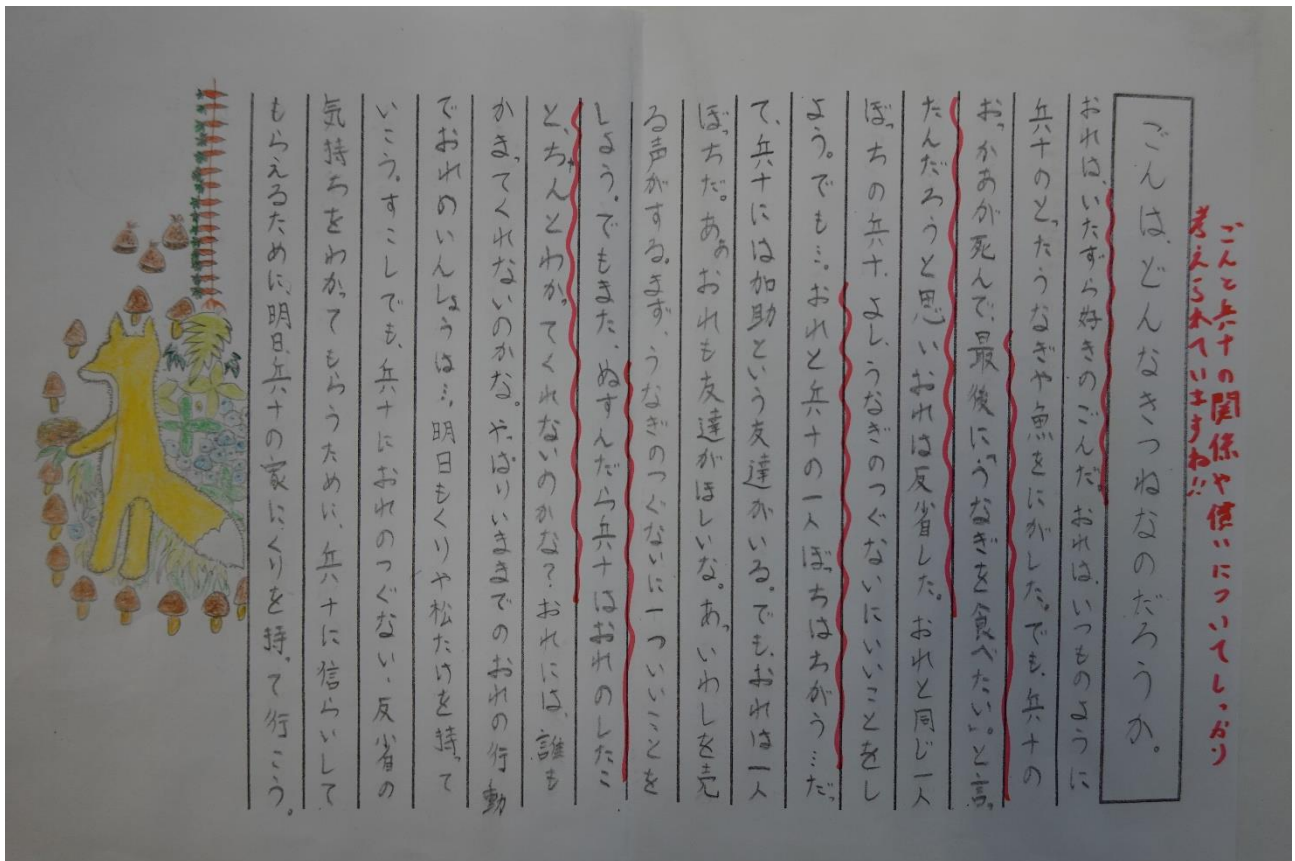
②単元全体を通しての変容 児童のノートより

第 1 次 感 想	第 2 次 感 想 (一部抜粋)
<p style="text-align: center;">A 児</p> <p>この物語はとても悲しいお話だなと思いました。一生懸命に、栗や松茸を持っていったのに、最後にもって行ってあげた兵十に火縄銃で撃たれて死んでしまっただけでかわいそうでした。みんなと話し合っ、たくさん意見を聞いてみたいです。</p>	<p>この物語はとても悲しいお話だと最初は思っていました。友達の話を聞いて、悲しいだけのお話ではないことに気付きました。兵十の一人ぼっちとごんの一人ぼっちは違う。兵十には周りに友達がいます。ごんはずつと一人ぼっち。だからこそ、いたずらをしてみんなから気を引きたかったのかなと思います。ごんは兵十にしてしまったことを悔いて、償いのことしか考えていなかったけど、徐々にごんがしたこと気が付いてほしい気持ち、期待する気持ちに変わっていったことを学びました。物語の中で、ごんの心が揺れ動く部分がたくさんあり、「つまらないな。」と思った翌日も、ごんはまた償いをしていくことから、償いの気持ちから、気づいてほしい、友達になりたいという気持ちが増えていった意見を聞いたときなるほどと思いました。きつと裏口ではなく、戸口から入ったことも、ごんの心境の変化があったのだと思います。兵十は憎いごんを撃ち殺すことができませんでした。しかし、ごんが償いをしていくことに気付き、「ごめんね。」という気持ちに変化していった。ここで、はじめてごんと兵十が心を通わせることができたのだと思います。ごんの青いけむりは、初めは、悲しみを表しているとおもっていましたが、授業を通して、兵十がごんを撃ってしまった後悔と悲しみ、そして天にごんの魂が細く天にのぼっていくという考えに変わりました。最初は悲しい物語だと思いましたが、村の茂平がこの物語を知っている理由を考えるうちに、心が温まる物語という考えも芽生えました。最期の場面で、現場にいたのは、兵十とごんだけなので、誰もこの物語を知らないはずですが。ごんは、ずつと一人りぼっちだったけれど、最期には兵十と心が通じ合い、そして村人の心の中で生き続けることができず。ごんは満足して天国で見守っているのではないかと思う。「愛」があるお話で、兵十とごんのすてきな物語だから、ごんに敬意を表して「ごんぎつね」という題がついているのだと思います。</p> <p>友達の意見を聴いて、たくさん自分の意見が変わったり、内容を深めることができました。これからも自分の意見を大切にしながら、友達の考えも大切にし物語の内容をもっともつと深めていけたらいいなと思います。</p>





③単元全体を通しての変容 「ごんぎつね日記」より



「いつはつまらないな」と思った。ごんの気持ちを考えて

おれはふらふら遊びに出かけた。あれ？兵十と加助  
じないか。何をしに来たんだろう。ん？おれの話し  
をしている。おれかや。たんだ。おれの話か。で  
くるはず。兵十たちは、お念仏があるんだな。  
よし、すこし長いけれど、おれの話しか。で、くる  
んだ。たら、待、ていようかな？よし。兵十達の話  
しを聴こう。あれ？兵十と加助は、おれのしたこと  
をわかっていない。どうして？なんで、おれのしたこ  
とをわかってくれないんだ。なほもしていない。神  
様にお礼を言うんたらう？おれのしたことに  
感謝してほしいな。わか、てくれて、友達になり  
なりたいな。で、ようかな。でも、今色々考えれば  
おれは、いたずら好きで悪い子ぎつね。ほんとう  
は、かま、てほしかたのに。おれが、悪い子ぎつねだ  
と思、っている。信じてもらいたいな。でも、いつか、わか  
てもらえる。よし、そのためにも頑張、てくりを持って行こう！！

ごんの中々野ん心の、ごんが伝わってきます。

「ひき合れない」と思っているから、兵十の家に住んだ。ごんの気持ちも  
えよう。

兵十は、くりや松たけが、いつも置かれて、いるのを神様のし  
わざだと思、ている。おれは少し悲しくな、た。でも、おれのし  
て、したことの、つぐないは、まだ、おれ、ていないんだ。  
だから、今日もくりや松たけを持って、行こう！！と思う。神様  
のしわざだと思われたけれど、また、気付いてほしいと思  
う。気持ちと友達になりたい！！つぐないを、したいと思、う。気  
持ちは、まだあるんだ。神様のしわざだぞ、と言われた時  
のあの、せつ望かんは、また、いまだに、忘れられないんだ。  
とても、悲しい気持ちだけれど、兵十と加助が神様のしわざ  
だと思、うのは、むりもない。おれのつぐないの気持ちは、一  
生消えないと思、う。だ、て、兵十は、もう一生願、いをかなえ  
て、あげられないんだから、おれは、一生つぐないをする。  
せめて、兵十の悲しい気持ちが消えるといいな。  
おれと兵十は、一生仲良く、できないのかな？同じ一人ほ、  
ちなんだから、仲良くしたいけど、無、理なのかな。  
あ、友達になれたら、どんなに、幸せなんだらうか。

つぐないの気持ち、伝わってきます。  
ごんの心の、ごんが伝わってきます。



ごんの悲しむとふれしごまじ、たんのチヂキミ  
てくるよつでした。

この物語の結末は二人にと、満足いくものだ、たのたうか。

おれは、今日もくりをつぐないのかかりに持、て行こうと  
思う。今日もつぐないができて嬉しいな。つぐないをやて  
きたし、満足感がある。でもおれかとも悪いことをしてしま  
ことばかりはない。兵十に気付してもらえて、友達になれ  
は「ヤリ」。くるしいくるしい体じゅうがものすごく熱い。  
兵十は、おれをうてて、とても嬉しいだろな。おれは、もう  
すぐ死ぬ。誰にもかま、てもらえず一人ぼ、ちで悲しく死ぬ。  
でも、おれはつぐないができてとても満足だ、でも心のおくは  
ふかい悲しみがあ、てせんせんきえてくれない。今日は、気付  
いてもらうために、いまはうら口だけ今日、戸口から入っ  
てきたのに、兵十の声を聴こえる。え、おれのしたことに、気付  
いてくれた。嬉しい、嬉しいあ、全部ではないけれど、心  
中のふかい悲しみがすしだけとれた気がする。良かった。  
最後、死ぬまえだけ、あやまりたい。兵十ごめんね。兵十の  
お、かあごめんね。今までおれにいたずらはかりされてた。  
村の人達ごめんね。あ、これで心おきなく死ぬるんだ。



ごんの幸せそうな気持ちも伝わってします。

おれは、いつまでも幸せなみんなにめぐりまわらうね、幸せだ、たよ。

おれの心の中から深い黒い影の存在、と消えていた。兵十に気付いてもらえな、おれ  
のこと兵十が村の人に教えたからなのかな？心の深くでくるといふ黒い影が消えた  
からとても気がすむ、兵十ありがとう♡おれの、話かごん、受けついで、  
いく、嬉しい嬉しい。兵十とは友達になれた気がする、もうおれは一人ぼ、ちじゃない  
んだ!!おれは幸せだ、たくさんの人に最後めぐらされて、兵十がおれをうてて、嬉しい  
だろなという悲しい、とくなく気持ちも消えて、今は心の中がたいよう外さしてい  
るかんじがするんだ、たぶんそれは満足と幸せという感じだろう、おれは、兵十にお  
れのこと伝言してくれて、心のしんから感謝の気持ちと最初にうなご、おれとあそんで  
した、た、ことでも申しわけなくおも、ている。おれは、兵十に、いっ、でもメールを  
送、ている。兵十にとくといふ、という気持ちとこめなから、兵十は嬉しい  
んだ、おれをうてたこと、後悔しててくれている。おれは、もう兵十のこととく、にや  
らしているし、感謝の気持ちも消えない。ところで、どうしておれの話が受けついでいる  
んか、あう？たぶん兵十が教えたのは、ま、まか、い、村の兵十という人なのかな？そ  
の兵十という人にもありがどうと伝えたく、たまらない。でもそのま、まか、い、とく  
れたのはおれも兵十だ。おれは、ごん、あ、あ、というま、まか、い、に、おれが、た、一人ぼ、ち  
でもみんなが幸せでくるといふんだ、兵十、ありがどう、おれは幸せなま、まか、い、だ、(完)





1 本時の実践（8/11）

2組 喜田 里実

(1) 本時の観点別目標

この物語の結末での出来事はごんと兵十にとって満足のいくものだったのかについて、情景や言動の叙述をもとに豊かに想像して読むことができる。【読むこと】

(2) 仮説に迫るための具体的手だて

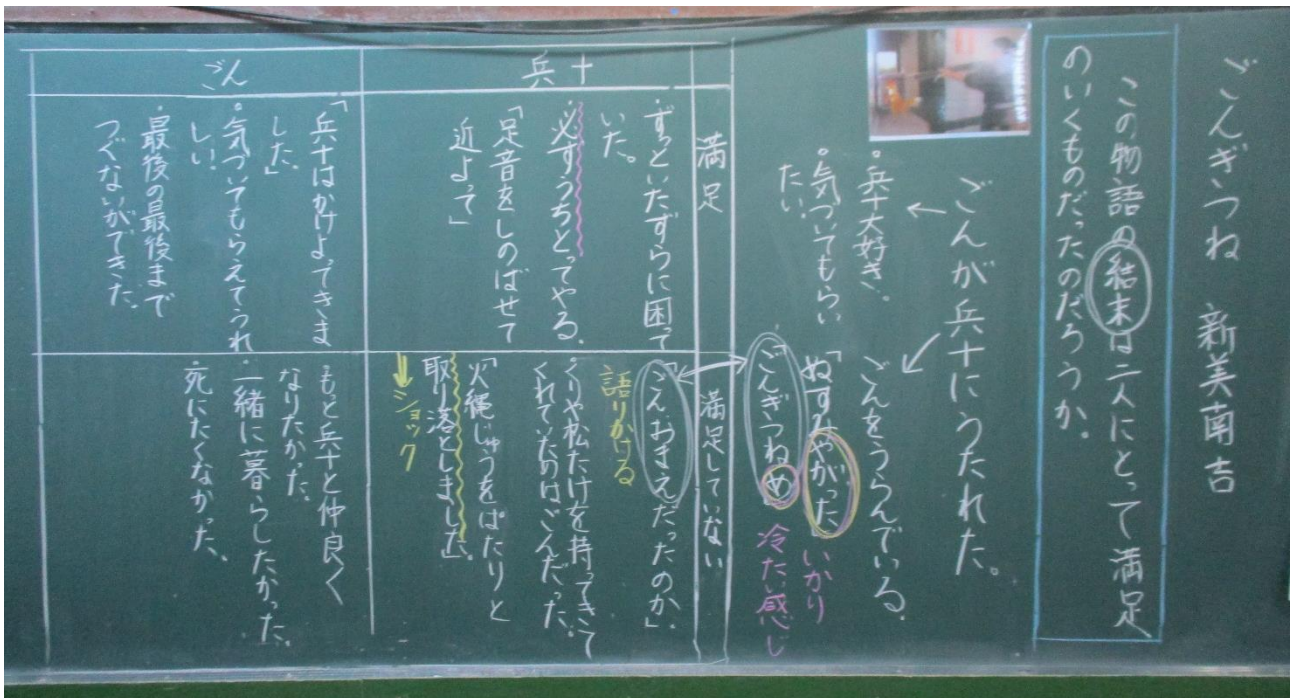
- ・最終場面の中からだけでは考えられない発問にすることによって、これまでの学習を振り返ったり前までの段落の叙述を読み込んだりと、物語全体をもとに考えられるようにする。〈仮説1〉
- ・自分の考えを書いたらまずはペアで交流をする。友達の考えに触れることで読みの幅を広げられ、また全体の前で発表する前の練習にもなると考えられる。〈仮説2〉

(3) 展開

過程	時配	学習内容と活動	◇考察
導入	2	<p><b>1 前時の学習を振り返る。</b></p> <p>○前回までで、ごんと兵十はお互いをどう思っていましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごんは気づいて欲しかったと思う。</li> <li>・兵十は今も、ごんのことをいたずらきつねだと思っている。</li> </ul>	◇本時までの登場人物の気持ちを復習し、学習の見通しを持つことができた。
展開	5	<p><b>2 本時のめあてをつかむ。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><b>この物語の結末は、二人にとって満足のいくものだったのだろうか。</b></p> </div>	
	30	<p>○第6場面を読みましょう。</p> <p><b>3 自分の考えをノートに書き、ペアで交流し、その後全体交流をする。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>① ペアでの交流 本文からの根拠をもとに、自分の考えを伝える。</p> <p>② 全体での交流 自分の意見や、先ほど聞いた友達の意見をもとに、より多くの友達の意見を知る。</p> </div> <p>○兵十はどう思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ようやくいたずらきつねのごんを仕留められた。</li> <li>・ずっとくりやまつたけを置いていたのがごんだと知ってショックを受けている。</li> <li>・もっと早くに気づいていれば・・・。</li> <li>・取り返しのつかない事をしてしまった。</li> </ul>	<p>◇最後にうたれる場面を音読することで、その時のごんや兵十の言動に着目し、学習の焦点を捉えられた。</p> <p>◇教科書に線を引くことで、自分の考えの根拠を明確にしてノートにまとめることができた。</p> <p>◇「二人にとって」というのが児童にとって焦点化しにくかったかもしれない。</p> <p>◇ペアで交流することで、人によって感じ方が違うということを知ることができた。また、相手の意見に興味をもって話し合う姿も見られた。</p> <p>◇意見交流をした後に、友達の考えをノートに書きとる時間を確保したほうがよかった。日ごろから、良いと思った意見をメモする習慣をつけたい。</p>

<p>まとめ</p>	<p>8</p>	<p>○ごんはどう思ったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やっとな兵十に気づいてもらえた。うれしい。</li> <li>・これでやっとなつぐないもできた。</li> <li>・もっと兵十となかよくなりたかったな。</li> </ul> <p>4 話し合ったことをもとに、もう一度自分の考えをまとめて兵十日記に書き、本時のまとめとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日おれは、ごんをうってしまった。ずっとおれのためにくりやまつたけを届けてくれたのに。</li> <li>・きっといつかのうなぎのつぐないのつもりだったんだろう。もっと早くに気づいていればよかった。</li> <li>・このごんぎつねの話を加助や他の村人たちにも伝えないと。</li> </ul>	<p>◇黒板を表のようにしていたことで、比較はしやすかったが、「どちらにも当てはまらない」という考えを表すには不向きだった。まずはどちらの考えかを問わずにどんどん発言していくようにしてもよかった。</p> <p>◇本時では、ごんぎつねの気持ちになって日記を書いた。これまでずっとごんぎつねの側から日記を書いていたので、気持ちの流れはつかみやすかったと思う。</p>
------------	----------	--	--

【授業当日の板書】



## 2 授業後反省

- ・前時までの学習を振り返りながらごんと兵十の気持ちを考え、叙述に沿った読みをすることができた。
- ・板書では「満足」「満足していない」の二極で書いているが、中には「どちらとも言えない」「どちらの気持ちもある」と二人の複雑な心境をとらえている児童もいた。その考えを板書の中にうまくとり入れることができなかつたことが反省点として挙げられる。
- ・自分の意見を確実にもち、友達と交流する中で考えを深めていきたいという考えから、ペア学習を何度か取り入れた。自分とは違う考えをもつ友達の話に真剣に耳を傾け、自分の考えも言葉で伝えることができていた。全体交流では更に輪を広げ、クラス全体で課題に対して意見を伝え合うことができた。その際に、友達の意見を自分のノートに書き入れる時間を確保した方が、考えを整理したり深めたりする時間になるのではないかと感じた。
- ・本単元を通して、「ごんぎつね日記」と題してその日のごんの気持ちを、ごんになりきって書いていった。「なりきる」という方法が児童に合っていたのか、いつも真剣に集中して取り組む姿が見られた。

## 3 講師・参観者等の指導及び助言

- ・学習課題を児童とともに作るため、学習への意欲の高まりや読みの深まりが感じられた。
- ・児童の発言を教師の考えで書き換えることなく、児童と一緒に考えながらまとめることが大切である。
- ・まとめとして書く「ごんぎつね日記」を冒頭に書き、それが授業の中でどう変わっていったのかを見比べる方法もある。

## 4 成果と課題

- ・担任が一人の読者として作品と向き合うことで、本当に読ませたいポイントや深めたいところが明確になる。  
しかし、その考えに児童を引っ張りすぎてはいけない。
- ・まとめとして行う活動を冒頭に持つてくることで、最後に同じ活動をした時の児童の変容を見取るという方法は実践したことがなかつたので、取り入れていきたい。
- ・自分の考えを全体に発表することはできていたが、友達の考えを聞いてもう一度自分で考えるという習慣ができていない。友達の考えをすぐにノートにメモする習慣をつけていきたい。

## 5 児童の変容

### (1) 児童のノートより

#### ①本時の変容 児童のノートより

授業のはじめの考え	授業の最後の考え（ごんぎつね日記より）
<p>兵十は、満足していません。理由は、「ごん、おまえだったのか。いつもくれをくれたのは。」と聞いたときに「ごんがうなずき、真実に気付いてしまったからです。ごんは満足だったと思います。理由は、兵十に気づいてもらえたからです。</p>	<p>今日ぼくは、兵十にうたれてしまった。でもぼくは後悔していない。なぜなら、兵十が、ぼくがくりをあげていることに気づいてくれたから。そして、最後まで兵十につぐないができて幸せだった。最後に初めて兵十の優しい声をきくことができた。兵十、ありがとう。つぐないができて楽しかった。また会おうね。</p>

授業のはじめには「気づいてもらえた」という理由だけでごんは満足だったと考えていたが、友達の意見を聞いて①最後まで償いのできたこと、②最後に兵十の優しい声がきけたことの2点が理由として追加されている。



②単元全体を通しての変容 児童のノートより

	第 1 次 感 想	第 2 次 感 想
A 児	<p>ぼくは初めてこの話を読んだとき、最後の場面が悲しいと思いました。いたずらをしてうなぎをとっちゃって、兵十のお母はうなぎを食べられないまま死んでしまい、ごんはそれを償っているあけていたのに、最後に死んでしまうからです。</p>	<p>でも兵十の気持ちはちがくて、ゴンが家に入ったのを見て火縄じゅうでうつつてしまいました。でも最後に、兵十はごんがくりを届けていたことがわかりました。</p> <p>最後の最後にいい話だと思いました。</p>
B 児	<p>ごんぎつねは、何を言われても兵十の家にくりを持って行ってすごいなと思いました。</p>	<p>ごんぎつねは語り継がれていて、たくさんの人を知っています。兵十が語り継いだ理由は、きつとごんのが大好きになったからだだと思います。この物語が終わった後のごんと兵十は両思いだと思います。きつと天国で出会ったら、親友じゃなくて大親友になると思います。</p> <p>この物語をみんなと学習できてよかったです。</p>

【考察】

初発の感想では、「ごんが毎日くりを持って行って優しい。」「最後にうたれちゃってかわいそう。」など、出来事の表面の部分だけでとらえている児童が多かった。また、悲しいお話なのかそうではないのかを問うた時には意見が半々くらいに分かれており、漠然と「悲しいだけじゃない」と考えている児童もいた。しかしその理由を聞いても答えられる児童はおらず、「ごんぎつね」に出てくる言葉の難しさや話の長さから、物語を理解していない児童も少なからずいた。

第2次ではまず、「ごんぎつねがどんなきつねなのか」をみんなでも考えた。物語全体を読むことでごんの多様な面を読み取ることができ、ごんのいたずらの理由や最初のつぐないの失敗から「実は自分たちと同じくらいの年なのではないか…」と主人公に親近感を覚える児童もいた。そのため単元を通して書いてきた「ごん日記」では本当にごんになったつもりでなりきって書くことができ、物語を深く読み込んで登場人物の気持ちを考えることができたと思う。

最後には、ひとりぼっちだったごんの存在が村中の人に知れ渡り、また時代を超えても語り継がれていくものになったことに対し、「ごんはもうひとりぼっちではないんだ」と温かい空気になって学習を終えることができた。

③単元全体を通しての変容 「ごんぎつね日記」より



今日ぼくは五回言のつぐないを  
しました。

はじめはいわしをあげればいいと  
思いました。でもだんだん、兵十がな  
かまたと思いだして、松たけやくり  
にしました。ひとりぼ。ちだとかなし  
いので、いつもつぐないをしています。  
このつぐないが、兵十にとっても良  
いづかないにな。たらいいな  
と思つて、いつもつぐないを、気持ちよく  
やっています。兵十にとって良いつぐ  
ないになりますように。ぼくは、  
このつぐないが、なんだかおもしろく  
感じます。明日もつぐないのくりや  
木たけをとどけるぞ。

兵十のためにがんばる  
がんばらね。



明日  
寺い

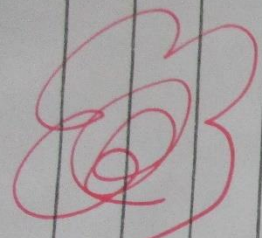
今日ぼくは、兵十と加助の話を  
聞きました。

その話は、ぼくのことな人がけ  
と、神様がや。てると言ってるんだ  
よし。どうしてなの！ぼくがや  
ているのには、でもそのこと、言え  
なかつた。だって前、ぬすとギ  
つねめと、兵十に、言われたがら。  
もく、このこの、ぼく、言った  
ほうか、よかつたの？、ニ、口、わ、な、く  
て、よ、かつたの？、ど、ち、な、の？  
「ドツ、ン、ン、ン」  
あ、し、どう、し、さ、う、木、で、家、か、ら、出、ら  
れ、な、か、た、か、ら、だ、し、ど、う、し、さ、う、  
だ、れ、か、た、す、け、て、し、し。

ぼくは、おぼえているぞん



今日兵十にうたれてしましました。  
でも、兵十にぼくがやっていることに  
気づいてもらってうれしかったです。ぼくは  
それにはんのうちできました。でも  
一人ぼっちに兵十がな、こしまいそれで  
もだいじょうぶかな。今日兵十の家に  
行かなかったらよかった。でも、時はもどせ  
ないから天国で遊ぶね。兵十一人  
でだいじょうぶかな。一人でできるかな。  
兵十のおかあはあとおねをしよう。  
でも、天国で兵十のおかあにおねが  
できるからいいか。



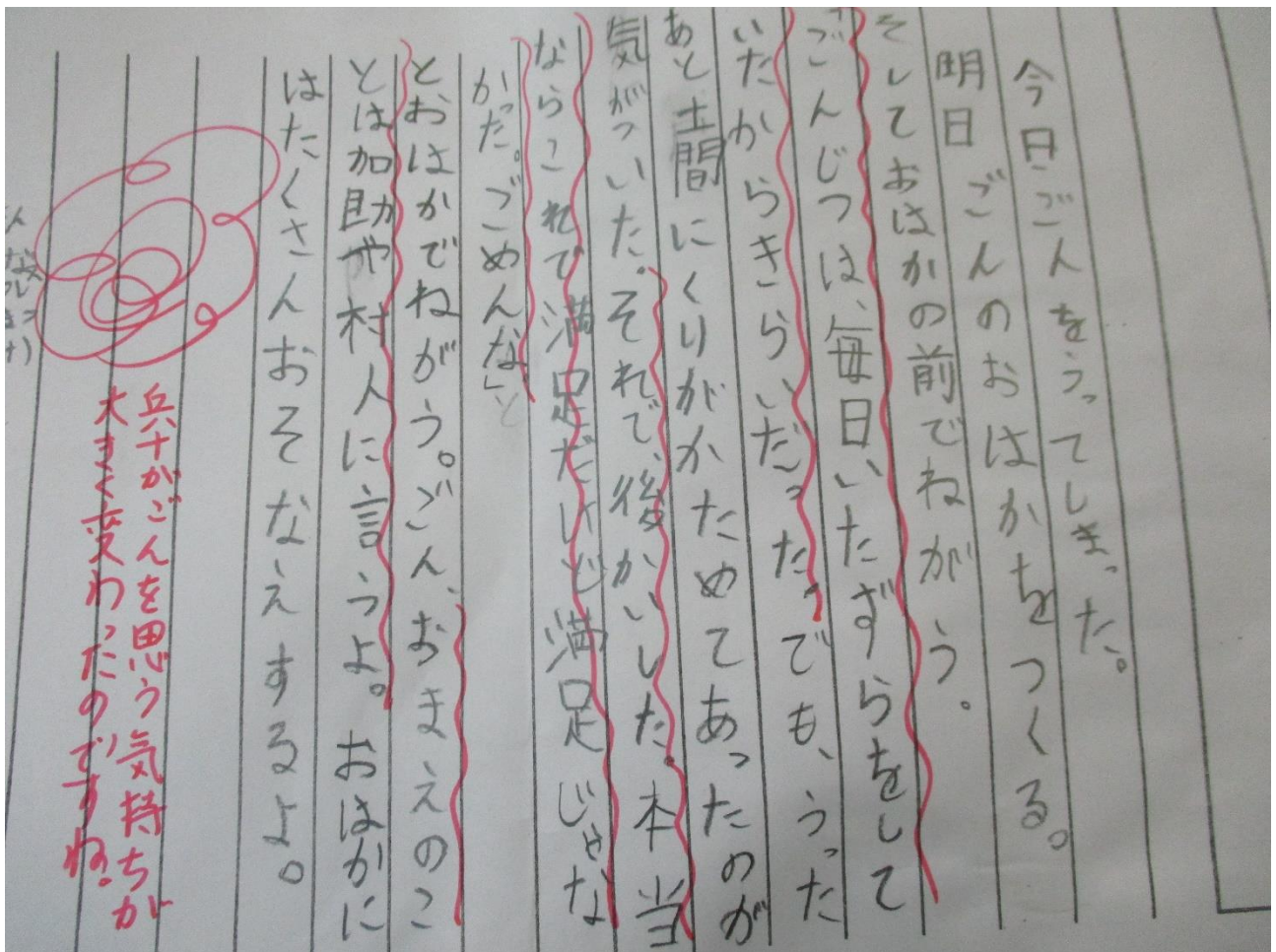
兵十のお母にも言いたいことがある  
です。

ぼくは今日も兵十にくりを届けま  
した。  
ひき合わないなと思ったけどおかあ  
か死人じゃって届けているのをご飯に  
しているかもしれないのでつぐな、ち  
づけました。つぐないをするのらう  
いやと思っただけ、兵十のためには  
ばってわりました。気づいてくれるの  
かな？兵十は、おねがい、兵十神様  
がやっている人じゃなくてぼくがやっ  
ているんだよ。早くきいてよ、兵十  
ね、ぼくがやっているんだよ！  
おねがしい気づいてよ。兵十、  
てさげんでもいみないのかな。でも  
気づいて。

もうさげんです。

兵十  
おねがしい





クラスで読み取った事実や心情をおさえつつ、自分なりに考えたごんや兵十の内声を書いている。普段はなかなか自分の思いを書き表すことができない児童も、「ごんぎつね日記」では夢中になって気持ちや考えを書く姿が見られた。

## 5 単元全体を通しての考察

### 仮説1について

#### ○成果

- (i) できるだけ「なぜ」や「どうして」を発問や学習課題に使わないことで、一問一答の答えに絞られることなく、児童から多様な意見を引き出すことができた。また、物語全体を読んで課題に対する自分の考えをまとめようとする姿も見られた。
- (ii) 登場人物の考えや出来事を時系列または上下段に分けて板書し、話の流れを整理しやすいようにできた。  
また、前時の板書を模造紙にまとめて教室に掲示することで、これまでの学習を振り返ったり本時の課題に取り組む際の手立てとなった。
- (iii) 日記を書くことで、その登場人物の気持ちやその日の出来事を正しくとらえることができた。  
また自分が感じた登場人物の心情を、台詞を入れたり手紙のような書き方で表したりする児童もいて、想像を広げながら物語に没頭する様子が見られた。

#### ●課題

- ・学習課題に関しては、児童の考えを尊重しながらも、おさえない読みがあるときには教師からの「なぜ」の発問が必要な場合もある。
- ・一様に上下段の板書では分けられない意見もあるので、それらも包括できる板書の工夫をすることができるとよかった。

### 仮説2について

#### ○成果

- (i) 隣同士で意見交換を行ったことで、全員が自分の考えを友達に伝える場面をつくることができた。
- (ii) ノートを上下段に分けることで、友達の意見と自分の意見を比較し、自分の意見を見直すことにつながった。
- (iii) ペイントを使って登場人物の心情を色で表すことは、言葉で伝えるのが難しい児童にとってもよい手立てであった。また前時との比較や本時の最初と最後での比較など、変化を捉えやすい。

#### ●課題

- ・友達と意見交換をした後に少しメモをする時間をとるなどして、ノートの上下段をしっかりと有効活用できるような手立てが必要だった。
- ・ペイントで選んだ色とその日に書いた「ごんぎつね日記」がどのように関連しているのかをクラスで共有できるようなものがあると良かった。

6 単元を通しての板書と掲示物

(1) 板書

① 物語のあらすじをとらえよう

ごんぎつね 新美南吉

物語のあらすじを読み取ろう。

ごんぎつね ひとりぼ、ちのこぎつね  
人里からはなれたところに住んで  
いたずら好き、  
。畑をあらす。火つける  
。とんがらしをむしる...など

ある秋  
ごんは川へ行く  
兵十と出会う  
ごんは見ていた  
知っている  
。ほろほろの黒い着物  
。ぎす太いうなぎをこていた  
ごんは「いたずらをした」  
魚を川へにかす  
ごん おもしろ半分(兵十)  
兵十 元氣ないしお水でいた  
ごんは考えた。  
兵十のおかあはうなぎを食べたい  
あんなにいたずらをしなげな兵十はよかた  
ひこりま、ちの兵十  
ごん、いあしをあげよう  
兵十と松たけをもっていく  
月のいはいばん  
兵十と加助が  
くりと松たけがおかされてる話  
ごんは黙っている  
「神様のしわざだぞ」  
↓神様におれを言え  
「いつはつまらないな」  
くりをきいていく  
兵十にはなれた「いたずら」  
。ドン火籠じゅうつたれる  
。たおれた(震天に兵十)  
。ごんお前だ、たのかし  
青いけむりがまたつりから細くつた。

明日  
ごんは川へ行く  
兵十と出会う  
ごんは見ていた  
知っている  
。ほろほろの黒い着物  
。ぎす太いうなぎをこていた  
ごんは「いたずらをした」  
魚を川へにかす  
ごん おもしろ半分(兵十)  
兵十 元氣ないしお水でいた  
ごんは考えた。  
兵十のおかあはうなぎを食べたい  
あんなにいたずらをしなげな兵十はよかた  
ひこりま、ちの兵十  
ごん、いあしをあげよう  
兵十と松たけをもっていく  
月のいはいばん  
兵十と加助が  
くりと松たけがおかされてる話  
ごんは黙っている  
「神様のしわざだぞ」  
↓神様におれを言え  
「いつはつまらないな」  
くりをきいていく  
兵十にはなれた「いたずら」  
。ドン火籠じゅうつたれる  
。たおれた(震天に兵十)  
。ごんお前だ、たのかし  
青いけむりがまたつりから細くつた。

② ごんはどんなぎつねなのだろうか

ごんぎつね 新美南吉

ごんはどんなぎつねなのだろうか。

人間のもの  
。なたねがらに  
。火をつける  
。火をあらす  
。とんがらしを  
。むしりとする  
。いあしをぬすむ  
。うなぎをぬすむ  
人間にかまてほしい

ごんぎつね  
ひこりぼ、ちの  
。おれと同じ一人  
。親かい  
。仲間意識  
。ごんかい  
。兵十には加助  
。かいる

人間に近い  
。兵十のおかあが  
うなぎを食べたい  
いたずらをする  
ごんは「いたずらをした」  
魚を川へにかす  
ごん おもしろ半分(兵十)  
兵十 元氣ないしお水でいた  
ごんは考えた。  
兵十のおかあはうなぎを食べたい  
あんなにいたずらをしなげな兵十はよかた  
ひこりま、ちの兵十  
ごん、いあしをあげよう  
兵十と松たけをもっていく  
月のいはいばん  
兵十と加助が  
くりと松たけがおかされてる話  
ごんは黙っている  
「神様のしわざだぞ」  
↓神様におれを言え  
「いつはつまらないな」  
くりをきいていく  
兵十にはなれた「いたずら」  
。ドン火籠じゅうつたれる  
。たおれた(震天に兵十)  
。ごんお前だ、たのかし  
青いけむりがまたつりから細くつた。

③ 「こいつはつまらないな。」と思ったごんの気持ちを考えよう

ごんぎつね 新美南吉

「こいつはつまらないな。」と思った  
ごんの気持ちを考えよう。

ごんは、「へんこいつはつまらないな」  
と思いましたが、おれがくりや松たけ  
を持っていてやるのに、そのおれには  
おれを言わないで、神様におれを  
言うんじ。あおれはひきあれないな。  
本当は...

松たけ  
ごん  
。自力でない  
。感謝されたい  
。おれを言ってほしい  
気付かれないように  
。小さく立ち  
止まった  
。うららかに  
。しゃがんでいた  
。止まった  
。道のかた側に  
かくもてた  
兵十の中では  
いたずら好き、  
ごんがまる  
ごんがさめる  
信じてもらえない  
不安

期待  
。兵十のかけはう  
を、おれが  
。楽しみに  
。希望  
。不安  
。行こう

八のか、どう  
どうしよう  
。不安  
。行こう

ごんは「いたずらをした」  
魚を川へにかす  
ごん おもしろ半分(兵十)  
兵十 元氣ないしお水でいた  
ごんは考えた。  
兵十のおかあはうなぎを食べたい  
あんなにいたずらをしなげな兵十はよかた  
ひこりま、ちの兵十  
ごん、いあしをあげよう  
兵十と松たけをもっていく  
月のいはいばん  
兵十と加助が  
くりと松たけがおかされてる話  
ごんは黙っている  
「神様のしわざだぞ」  
↓神様におれを言え  
「いつはつまらないな」  
くりをきいていく  
兵十にはなれた「いたずら」  
。ドン火籠じゅうつたれる  
。たおれた(震天に兵十)  
。ごんお前だ、たのかし  
青いけむりがまたつりから細くつた。



④ 「ひき合わないな。」と思いながらも兵十の家に行ったごんの気持ちを考えよう

ごんぎつね 新美南吉

「ひき合わないな。」と思いながらも  
兵十の家に行ったごんの気持ちを  
考えよう。

ごん

はじめ  
松たけ  
お礼  
神様

ひき合わない  
その明(あきら)め

つくない  
うなぎのかわり  
自分が悪いこと  
こめんね  
もう生(なま)願(ねが)い  
かなえてあげようもない...

だんだん

神様のしわざにされてしまう

気付いてほしい  
自分がぐり松たけを  
もっていこうか  
自分の話?

仲良(な)くしたい  
大好き  
人(ひと)ほ(ほ)ち(ち)同(どう)士(し)  
友達(ともだち)になりた(た)い

今(いま)  
ごんの心の中は...

気付いてほしい  
つくない  
仲良(な)く  
気付いてほしい

④ごん日記をかこう

④ごんの気持ちをポイントで  
表現しよう。

⑤ この物語の結末は、2人にとって満足のものだったのか。

ごんぎつね 新美南吉

この物語の結末は二人にとって  
満足なものだったのだろうか。

神様と思われた  
悲しい  
明(あきら)む(む)る(る)巨(こ)も(も)くり(くり)を(を)使(つか)っていた  
つくない 気付いてほしい  
仲良(な)くしたい

ごん

最(さい)期(き)に  
おれ(れ)び(び)が(が)で(で)きた  
兵十(へいじゅう)の前(まえ)に  
ごん(ごん)お前(まへ)だ(だ)だ  
の(の)か  
気付いた  
うめい  
あやまりたい  
兵十(へいじゅう)に(に)や(や)り(り)たい(たい)こと  
友達(ともだち)になり(な)り(り)たい

神様(かみさま)扱(あつか)い(い)さ(さ)れて  
くやしい  
村(むら)の人(ひと)た(た)ら(ら)に(に)あ(あ)や(や)ま  
木(き)な(な)い  
あやまりたい  
兵十(へいじゅう)に(に)や(や)り(り)たい(たい)こと  
友達(ともだち)になり(な)り(り)たい

後悔(こうかい)  
何も(なんにも)知(し)ら(ら)ず(ず)つ(つ)た  
お(お)ろ(ろ)く  
う(う)て(て)う(う)め(め)い  
お(お)か(か)あ(あ)に(に)う(う)な(な)き(き)を  
食(た)べ(べ)さ(さ)せ(せ)ら(ら)な(な)い  
命(いのち)は(は)つ  
村(むら)の人(ひと)た(た)ら(ら)に(に)  
感(かん)謝(しゃ)!!  
いた(いた)ず(ず)ら(ら)ば(ば)かり

村(むら)の(の)茂(も)平(へい)か(か)こ(こ)の  
物(もの)話(わ)を(を)知(し)っ(っ)て(て)る(る)?

ごん

兵十

⑥ 村の茂平という人がこの物語を知っているわけを考えよう。

ごんぎつね 新美南吉

村の茂平という人がこの物語を  
知っているわけを考えよう。

語り手  
ごんは、わたし(わたし)が(が)小(こ)さ(さ)い(い)時(とき)に、  
村(むら)の(の)茂(も)平(へい)と(と)い(い)う(う)お(お)じ(じ)い(い)さ(さ)ん(ん)か(か)ら(ら)聞(き)いた(た)お(お)話(わ)は(は)  
兵十(へいじゅう)と(と)ごん(ごん)が(が)いた(た)村(むら)

誰(たれ)か(か)に(に)話(わ)した(た)?  
悲(かな)しい(しい) ごん(ごん)の(の)死(し)  
青(あお)い(い)け(け)む(む)り(り)が(が)つ(つ)ろ(ろ)か(か)ら(ら)  
細(こま)く(く)出(で)て(て)い(い)た(た)

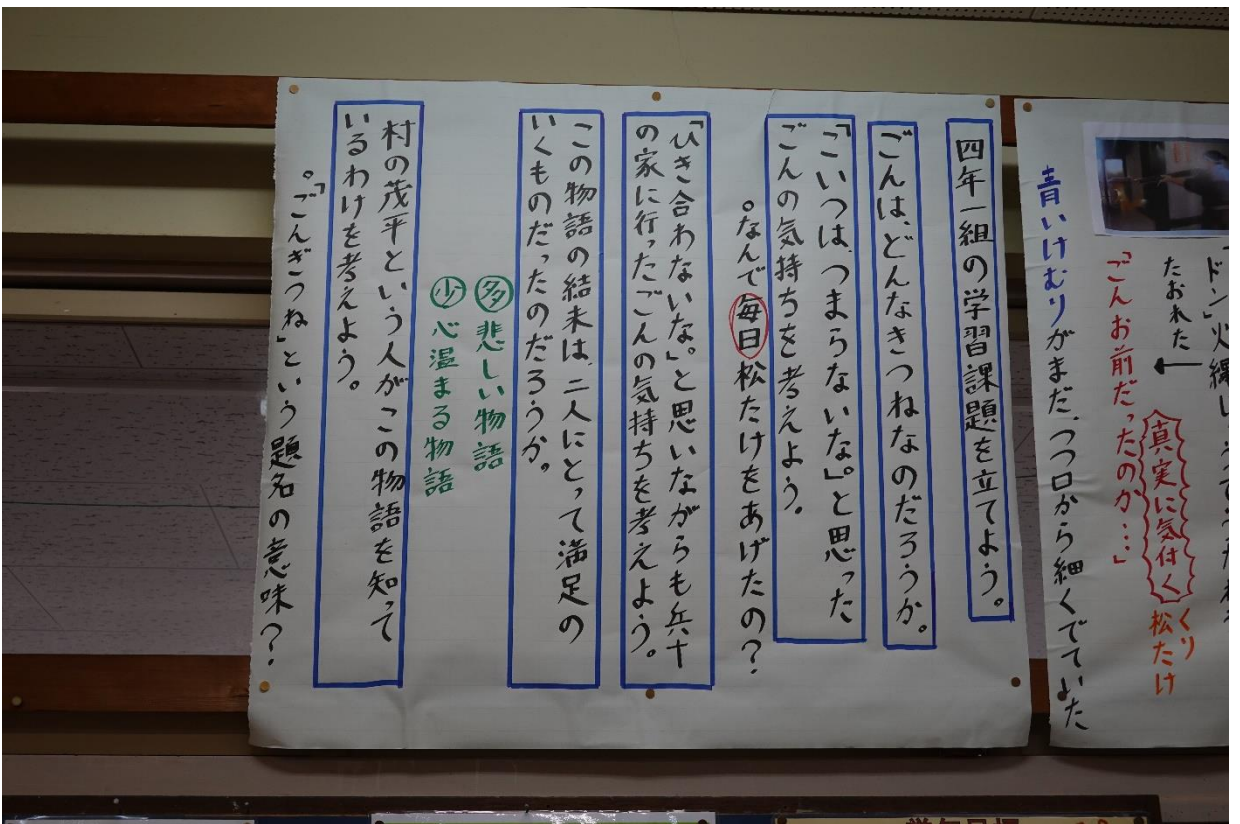
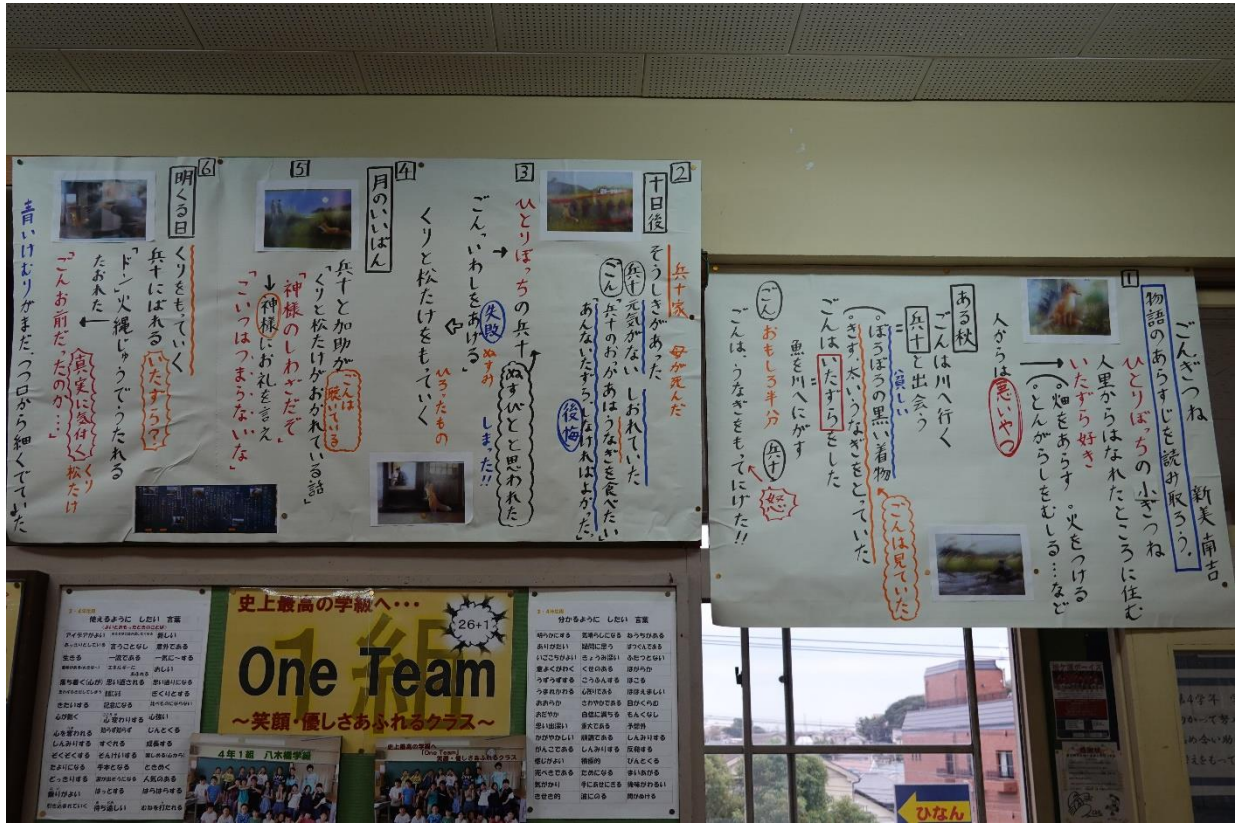
ごん(ごん)の(の)す(す)ば(ば)ら(ら)し(し)さ(さ)  
償(たが)い(い)を(を)し(し)て(て)く(く)れ(れ)た(た)  
償(たが)い(い)が(が)め(め)ず(ず)ら(ら)しい(しい)  
加(か)助(すけ)に(に)真(ま)実(じつ)を(を)伝(つた)えた(た)

悲(かな)しい(しい) 感(かん)謝(しゃ)  
本(ほん)当(たう)は(は)、優(やさ)し(し)が(が)た(た)ん(ん)だ(だ)ね(ね)。  
あ(あ)り(り)が(が)と(と)う(う)。ごん(ごん)。

村(むら)の人(ひと)た(た)ら(ら)  
ま(ま)じ(じ)か(か)よ(よ)!!  
受(う)け(け)つ(つ)か(か)れ(れ)て(て)い(い)く(く)  
「ごん(ごん)ぎ(ぎ)つ(つ)ね(ね)」  
敬(けい)意(い)

⑥天国(てんごく)に(に)い(い)る(る)ごん(ごん)に(に)な(な)っ(っ)た(た)気(き)持(も)ち(ち)で(で)  
ごん(ごん)日(じ)記(き)を(を)か(か)く

(2) 掲示物





**人間に対して**

**いたずら好き**

- ・なたねがらに火をつける
- ・畑をあらす
- ・こんがらしをむしりこる
- ・いわしをぬすむ・うなぎをぬすむ

**人間にかまわってほしい**

**頭がいい**

- ・人間を出しぬく
- ・兵十のおがあの気持ちよんだ

**いいきつね** **反省**

つぐなう

**悪いきつね**

- ・悪いことばかり

**人間に近い**

- ・子供のようないたずらをする


**ひとりぼっち**

- ・親がいない
- ・おれと同じ一人ぼっちの兵十が

**仲間意識**

- ・兵十には加助がいるけど?
- ・こうがい
- ・せつない

**小ぎつね**



「ごんは、どんなきつねなのだろうが。」

**「ごいつは、つまらないな。」と思ったごんの気持ちを考えよう。**

**期待**

- ・家の中においた
- ・自分の話分な!!
- ・続きかきになる!!
- ・内容が知りたい!!

**不安**

- ・信じてもらえない
- ・ごがいとめる
- ・つかまる
- ・気がなる・にげらるるさより

**気が付いてほしい!!**

- ・二人の話を聞こう!!
- ・お念仏がすむまでしゃがんでいた
- ・自分の話分な!!
- ・続きかきになる!!
- ・内容が知りたい!!

**気が付かれないように...**


- ・小さくなってしゃがんで...
- ・道のがた側にかくれていた
- ・うらうらうらこすり

**神様と思われた**

- ・自力でない
- ・感謝されたい
- ・おれを言われたい
- ・くやしい

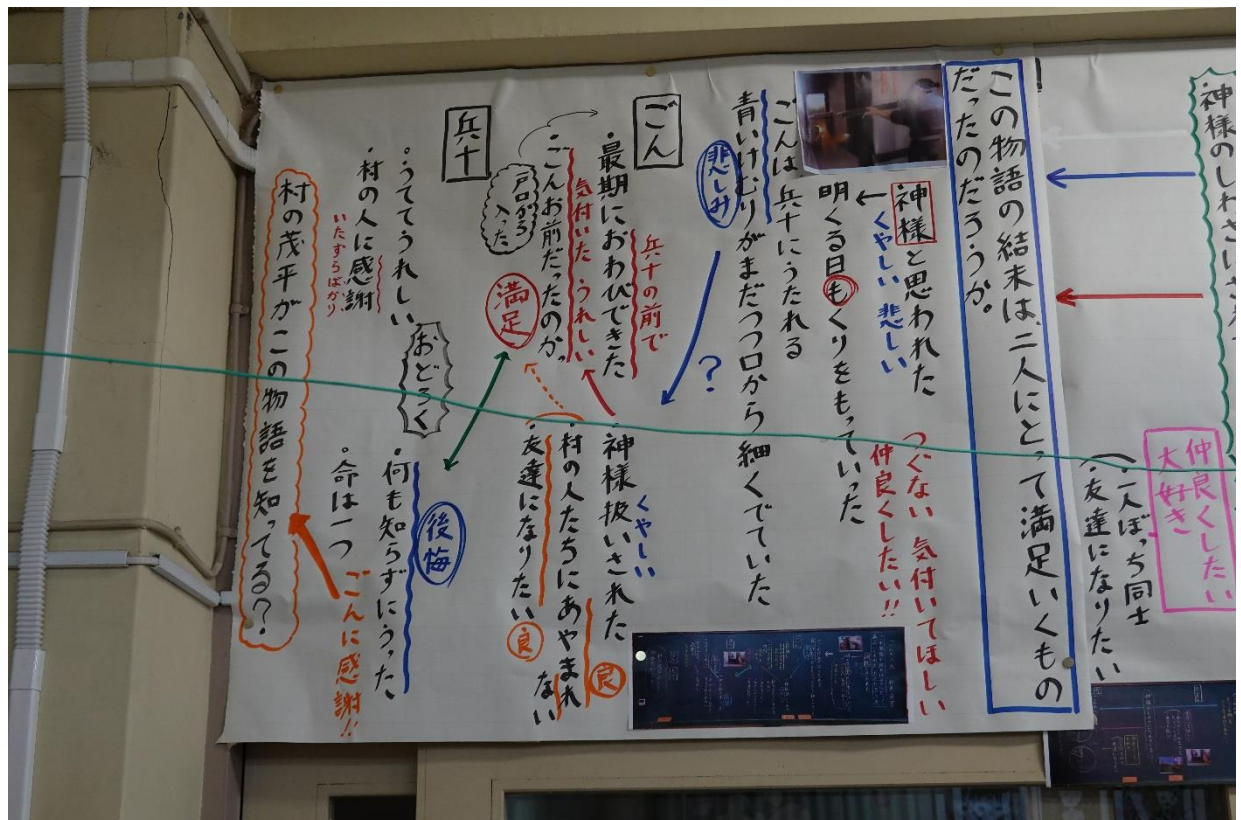
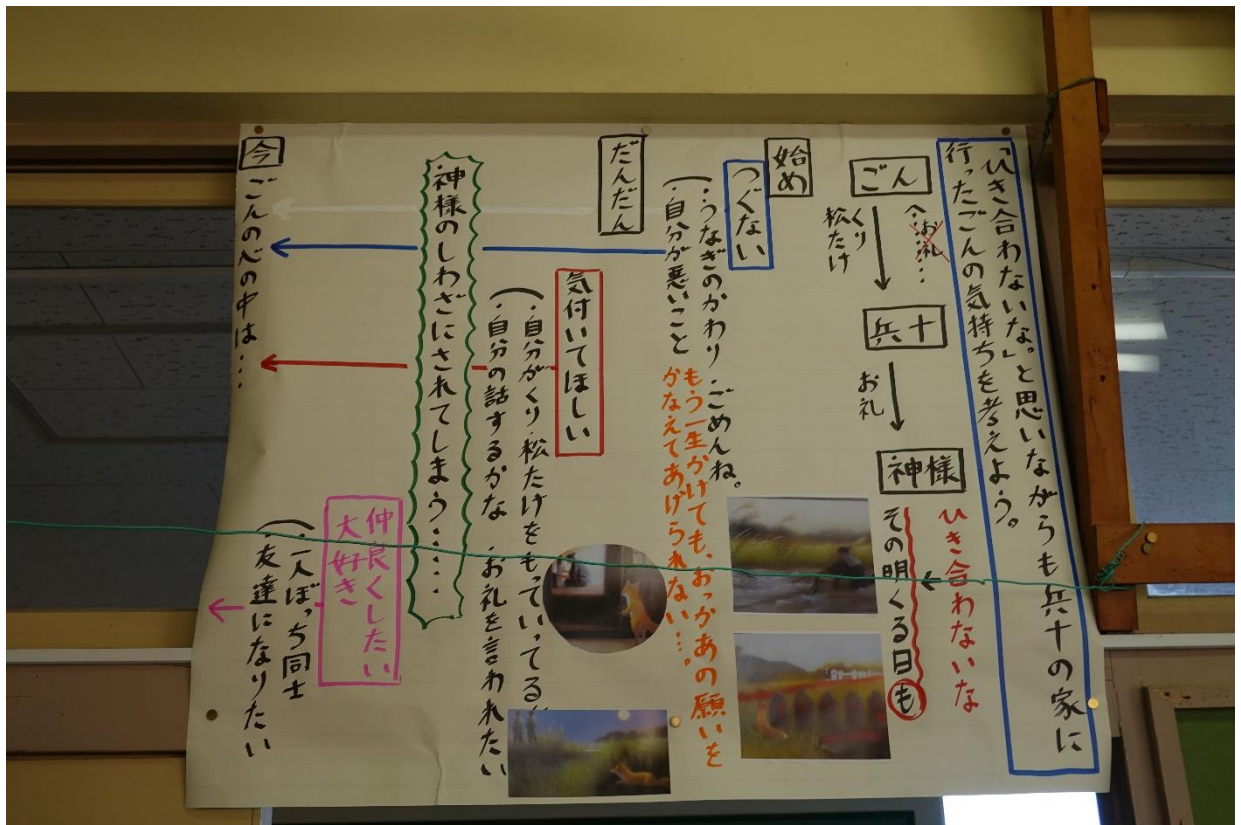
本当は...  
くろくごん

松たけ



「ごいつは、つまらないな。」と思ったごんの気持ちを考えよう。





村の茂平という人がこの物語を知っている  
わけを考えよう。

【ごん】

青いけむりかつつ口から細く出ていた

【兵十】

誰かに話した!!

これは、わたしが小さい時に村の茂平というおじい  
さんから聞いた話です。兵十とごんがいた村

くり松たけをもっていた

・ごんのすばらしさ

・償いをしてくれた

・償いかめずらしい

・加助に真実を伝えた

悲しみ

感謝

本当は、優しが、ただだね。

ありがたう。ごん。ごん。ごんね。

村の人たち

悲しみ

生きてほしがた

・まじがよ...

受けついでいく 語りついでいく

ごんぎつね

敬意

